



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

蓮如上人とパンデミック

太田浩史



〔略歴〕
一九五五年富山県生まれ。大谷大学卒業。真宗大谷派大福寺住職。となみ民藝協会会長。日本民藝協会常任理事。砺波詰所維持委員長。

「生れ生れ生れ生れ生れ生れの初めにくらく、死に死に死に死んで死の終りにくらく」(『秘蔵法鑰』)と弘法大師は述べておられますが、まことに生死は最大の謎です。

誰しもが、自分の人生に満足し、思い残すことは何もないと、喜んでこの世を去ることを夢見ていますが、現実にはそういふ人は存在しないのではないのでしょうか。むしろ思い残すことは山ほどあり、割り切れない思いを懐いて向き合わなければならないのが死というものではないのでしょうか。割り切れない人生こそ、人間にとって自然なあり方であり、割り切れる人生などというものは偽装された砂上の楼閣にすぎ

ないのではないのでしょうか。

割り切れない人生ということを痛感させるのが、現在進行中のパンデミックです。元気に人生を謳歌していた人が、とつぜん呼吸が苦しくなり、隔離されて、戦場のような医療現場で人工呼吸器をつけられ、家族や友人との面会も許されず、何か言い遺すこともできずに、苦しみのうちに終焉を迎える。そして遺体は頑丈なフラスナーのついたボデイバッグに収納され、二十四時間以内に焼かれてしまう。世界に蔓延する不条理な死……。

「疫癘の御文」は、そうした緊急事態の中で書かれました。延徳四年(二四九二)の春より「疫癘」と呼ばれる咳をともし、感染症が全国に流行し、それに追い打ちをかけるように飢饉がおこりました。何となく、新型コロナウイルスに経済危機という現代の情況に似ています。現代の情況に似ています。「疫癘」とは、役(戦争)のようにたくさんの人が急死する病という意味です。

感染が蔓延する夏の盛り、七十八歳の蓮如上人は和歌山から堺へ布教の旅を続けておられました。堺の町は多くの死者と感染者にあふれ、人々は「非業の死をとげた人は成仏できない」という風聞に踊らされていました。この世に未練をもった人が成仏できずに化けて出るという発想は、現代人も変わらないのだから笑ってはいられません。人々は蓮如上人に尋ねました。「私も疫癘にかかって死んだら成仏できないのですか？」蓮如上人は答えました。「これさらに疫癘によりてはじめて死するにはあらず。生れはじめしよりしてさだまれる定業なり」。

コロナ感染に思うこと 愚禿のころ

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、私たちの日常は一変しました。そのことで露わになったのは、私たちの「弱点」「弱さ」です。

私たちは感染の不安と重症化の恐怖の中で、そのストレスから逃げ出たくて他者を非難してしまいます。他県ナンバーの車を見ただけで、心がざわつき、感染者はもちろん、家族や医療に従事される方や介護に携わる方にまで、排除の力が加わるのは、私たちの抜きがたい身勝手さの「弱さ」の証拠です。

諏訪中央病院の鎌田實先生は、「そもそも、感染した人に厳しい社会は、感染症に弱い」とおっしゃっています。自分だけは、家族だけは、我が町だけはという心が、その「弱さ」の元にあります。

親鸞聖人は「愚禿」と自らを名のられました。「禿」はもともと「かぶろ」と読みましたが、訛って「かむろ」と読みます。鎌倉時代の仏教説話集の『沙石集』には、禿居士という言葉があり、形だけの墮落した僧侶という意味です。禿人は愚か者を指す言葉です。愚禿は、「おろか」を二つも重ねた表現になりますから、極めつけのおろかさです。

しかしそれは、知識がないとか常識がないという意味ではありません。「弱さ」をいっぱい持っているという意味です。そしてその弱さを「無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち、そねみ、ねたむころをおおく、ひまなくして臨終の一念にいたるまでとどまらず、きえず、たえず」と言われます。さらに、その弱さを無いかのように、外側だけ賢ぶってりっぱな振りをして決してなくなるのに、それをごまかしている、その様を「おろか」といわれるのです。

「弱さ」は個人だけのことではありません。その私たちが作っている社会は、このウイルスの問題にあたって脆さを露呈しました。緊急

医療体制の不備や医療物資の不足など。分かっていたのに目先の豊かさ・強さ・りっぱさを追いかけていました。また経済的な格差や暴力にさらされる「弱い立場」の人を置き去りにしてきたことで、今いよいよ追い詰めています。だからこそ力を合わせなければならないのに、原因や責任を擦り付け合う大国のリーダー。これが「おろか」と言われる姿です。

愚禿とは、あるのに無いことにして、見ないで自分の「弱さ」を認めた表現です。それはその「弱さ」を責め立てるのではなく、それを悲しみ、全部受け止めて知らせ続ける教えに出会ったからです。

愚禿と名のられた親鸞聖人は、流罪の地である越後さらに関東で、その教えを確かめながら多くの人と出会われます。それは立派な装いを保ち力を誇示できる存在からは、いつも排除され置き去りにされ、人として大切にされることのない人たちでした。

その出会いは「弱さ」をごまかさず、互いの「弱さ」を認めながら、助け、助けられして、だれも置き去りにしないよう、粘り強く関わり続ける歩みを開きました。それは、関東におられた二十年間だけでなく、京都へ移られた後の亡くなるまでの三十年間も変わることなく続いたのです。

そんな歩みを共にした人たちを親鸞聖人は、力の中心で見栄えの象徴である「都」に対し「いなかの入々」、「都」からは顧みられることのない者として「いし・かわら・つぶてのごときわれら」と語りかけられました。

この「弱さ」を認める「愚禿のころ」が、今の世界を生きる基盤です。

不遠寺住職 四衛 亮

～ご坊さまの掲示板～

乗り越えるというよりも、この辛さや孤独を無駄にしない。
酒井義一

家族で話そう

人生の

「こんないい」「あんないい」

佐賀枝 夏文

樹木から教えてもらったお話

樹木画テストとの出会い

心理カウンセラーとして傾聴の方法や心理テストを学びはじめた頃、樹木画テストに関心と興味を持ちました。このテストは画用紙に鉛筆で「樹木を描いてください」というものです。実施も容易で、テストを受ける方の気持ちの負担も少ないことに魅力を感じました。この樹木画テストは、森の国といわれるドイツの古い言い伝えから考案されたと言われます。それは「人生で迷ったら森へ行き樹木に尋ねなさい」という伝承文化から生まれたといわれています。また、樹木画テストはドイツ語でバウムテストといいます。

自己理解のない他者理解はない
バウムテストは、一枚の画用紙に鉛筆で自由に樹木を描いてもらいます。画用紙に描かれた一本の樹木は、描いたひとのさまざまな姿を投影していると考えられています。鉛筆の筆圧からは、今の自分に自信があり、躊躇がない場合は筆跡も力強いと読みます。描かれた樹木が画用紙におさまりよく描かれていれば、生き方のスタイルが安定しており、他者との関係性も良いと読めます。

臨床の現場でたくさんバウムテストを見てきたのですが、実はボク自身の描く樹木が一番気になっていました。それは、決まって折れた枝を描くことでした。枝が折れたり、幹が切断されているのは、一般的に何かを失う体験や、傷ついた体験の表現として考えられています。ボクが自分で描いた樹木画でかつての体験が未だに未消化で、悲しみを抱えていることを再認識しました。

心理カウンセリングへ関心を持ったのは、誰かのためではなく、自分のやり場のないつらさ悲しさが理由だったのかもしれない。それは「自己理解のない他者理解はない」ということと一致するかもしれない。自己理解は容易なことではありませんが、大切な原点であることには違いありません。

ボクはバウムテストから実際の樹木に関心を寄せるようになり、街路樹や、山の木々に目を移せば身近に見ることができそうです。それまで、樹木が身近にあることに気づかずに見過ごしていたことに驚きを感じました。

仏教の三聖樹
ボクがバウムテストにさらに関心を持ったエピソードを紹介してみます。それは、近所で開店した洋菓子店「リンデン」が菩提樹から店名を決めたということからでした。菩提樹は、仏教の三聖樹の一つです。

お釈迦さまがリンビニーの花園で誕生されたとき、お母さまのマーヤさまが無憂樹の華の香りに誘われて橙色の華を愛でていらした言い伝えがあります。また、お

釈迦さまが29歳で出家され6年の修行の末、35歳のとき菩提樹の樹下で「さとり」を開かれます。そして、お釈迦さまが80年の生涯を終えられるとき、お弟子のアナンさんに「自灯明法灯明」を説かれ、北の方角に頭を、からだを横向きにして足を組んで、沙羅双樹の樹間に寝かせてもらい涅槃に入られました。お釈迦さまが涅槃に入られると白い沙羅の華が咲いたと言われます。

このように、誕生に由来する「無憂樹」、さとりに由来する「菩提樹」、そして、涅槃に由来する「沙羅樹」と、実に大切なことを伝えており、樹木の味わい深さを感じます。お釈迦さまの生涯と樹木の言い伝えがボクにバウムテストへさらに関心を深め、さまざまな樹木に出会うようになりました。

心理カウンセラーとしてのボクが仏教に関心をもったのは、このバウムテストがきっかけだったようにおもいます。そしてボクが少年時代に傷ついた体験を、樹木の姿から一つひとつ教えていただきました。

今回は樹木の姿から教えていただいたことについてお話ししたいと思います。

次回回は尾角光美さんの「仏教×グリーンフェア」です。



次回回は尾角光美さんの「仏教×グリーンフェア」です。

コロナウイルス感染拡大に伴う行事の実施状況

6～8月の教区・別院行事の実施情報が次のように更新されました。高山別院における御命日の御座ならびに佐奈姫忌は、ご参拝をご遠慮いただきますが、本堂で読経のみ行う内勤めとさせていただきます。

高山教区 婦人研修会 (6月25日)

佐奈姫忌法要 (6月26日)

高山別院 親鸞聖人御命日法座 (6月28日)

高山別院 三日のご坊 (7月3日)

児童夏のつどい (7月下旬)

ご回壇 (7月)

※毎年7月から各寺院にて勤まりますが、本年は中止となりました。

真宗本廟 子ども奉仕団 (8月)

飛騨学場 (8月1日～5日)

暁天講座 (8月1日～5日)

ご坊夏まつり (8月16日)

飛騨御坊 真宗教化センター発足

今月末をもって、高山教区は岐阜教区と一つになり、「岐阜高山教区」となります。このことを機縁として7月からは高山別院を中心とした「飛騨御坊真宗教化センター」が開始してまいります。

これまで同様、あるいは新しい形を伴って教化事業を展開してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

お盆セール開催中 8/10まで
仏具磨き教室 7/12 7/13 7/14
午前・午後の部 各5名
お電話でご予約ください
仏壇工芸 ほりお
高山市三福寺町369-7 TEL0577-33-6686

雲上 山純先
やまのひかり
平田酒造場 高山市上二之町43 TEL 32-0352
建築写真・測量用の撮影・PR映像
ドローン空撮
高山市桐生町7-150-3
有限会社リプロ
TEL0577-33-0350

大谷婦人会 7月11日(土) 午後1時から
定例法座 三島多聞別院輪番
提灯製作 見積無料
通常、製作開始より2～3週間で納入させていただきます。
雨に強い楽々提灯 展示販売の店 あかりの蔵
株式会社 高山提灯
新型コロナウイルスの対策として誠に勝手ながら暫く不定期営業を行っております。ご用命の際は電話いただきたくよろしくお願いいたします。
HPアドレス: https://takayamachochin.com
Webで検索 あかりの蔵 高山提灯 検索
所在: 高山市本町4丁目33 電話: 090-1629-8535

山都印刷株式会社 印刷物全般・自分史製作
久寿玉 KUSUDAMA
平瀬酒造店 TEL 34-0010
スナック 卯木 うづぎ
〒506-0017 高山市朝日町13-3 ☎0577-36-0030
総合建設業 カ 奥原建設株式会社
高山市総和町三丁目九〇 TEL0577-33-1076-1
ブックス・アイオー NHK宗教の時間テキスト 「観無量寿経」をひらく NHKテキストコーナーで販売中! TEL0577-33-1766-8
隙間スペースに設置する納骨堂好評です。 こすぎ ACT
岐阜県高山市本町3-160 0577-33-21745

リフォーム 補修工事 クリーニング 墓じまい
お墓の悩み、ご相談ください。
ご相談・お見積り無料!
FAX 33-9763
高山市新宮町 2498-1
新宮小学校前
株式会社 奥田石材
TEL 0577-33-9601